

第1分科会

話題：収集の二重袋を減らすには ～破袋度の向上をめざして～

参加者 自治体関係者	16名
中間処理関係者	6名
事業者関係者	5名
コーディネーター・書記	2名
合計	29名

- ・冒頭に二重袋の問題点について主催者側から資料説明～破袋度と容器包装比率との高い相関関係、破袋度と禁忌品との相関関係など。また容器包装リサイクル協会より、二重袋（小袋）の判定基準について説明。以下のものは未破袋と判定しない。

- ①こぶし大程度より小さいもの
- ②レジ袋、半透明の袋で内容物が容易に確認できるもの
- ③完全に破袋されていないが裂け目があって、持って振れば内容物が少しずつ落下するもの

（1）中間処理関係者の取り組み

- ・前処理で45リットル程度の大きさの破袋機を設置している。後工程に破袋機は設置していないので、すり抜ける小袋は人手によりカッター等で切り裂き、中身を出している。良い機械があれば人手から切り替えたいと考えており、検討している。前処理での破袋度は50パーセント程度。
- ・前回のベール検査でDランクと判定された。内容は未破袋があり、また小さなスプレー缶が入っていたため。人員を増やして対応しているが、なかなか良いアイデアがない。今日の皆さんの知恵や意見を参考にしたい。
- ・破袋機の性能が良くなっているが、まだ未破袋はかなり出る。カッターで切り裂く専門の人を置いて、他の人が選別をするやり方をしており、人の力はどうしても必要。1回／週、容リ協と同様なやり方でベール解体調査を実施、結果を作業員にフィードバックし、未破袋についてはAランクを維持している。容器比率や中身の汚れでDランクになるのは相当の手抜きだと思う。ベールは圧縮されるので外観が汚れてしまう場合があり、それも評価の中に入るのかはサジェッション頂きたい。また禁忌品の評価で、60キログラムの中に小さな乾電池が1個入っていると、処理量に関わらず全量がDランクになってしまうのは如何なものか。

－容リ協より－

基本的に個々には調査に訪問できないので、処理量のデータは無い。考え方は理解するが、現状では評価方法は変えられない。ベールのランク毎に次のようなデータがある。この数字の背景には何かがあると思われる。

Aランクの自治体	年間平均排出量	約 7kg／人
B	”	約10kg／人
D	”	約13kg／人

- ・プラ一般で回収。二重袋は破袋機と作業員による破袋でやっている。二重袋に入っているもの

は中身が汚いものがほとんど。また手で持って重いものは汚いものと判断し、全て除去する。自主検査で未破袋は10%未満と見ている。汚れについてはまた別に判断している。

- ・前処理で破袋する。持って重いもの、硬いものは除去する。小袋には言葉で言えない様なひどい物が入っている。最近では良くなってきている。色々なものが入っているが、全て手作業で破袋して中を確認している。
- ・暮れに量が増える。通常は1回/週の収集であるが正月は1回/2週となり、倍の量が廃棄される。普段はレジ袋だが溜め置きしなければならないので、他の袋に小袋として入れるケースが出てくる。指定袋は有料が多く、また容リプラではないという問題がある。
- ・品質検査の目的は理解したが、破袋率を上げるため未破袋を除去すると残渣が増え、残渣を少なくしようとすると異物が増える。ジレンマがある。
- ・民間で中間処理して再商品化事業者の方に廻しているが、中間処理業としての業務はあくまで行政と民間との契約であって、容リ協とは関係がない。行政の考え方がきちんとしていけば問題ない。排出する住民へ啓発・啓蒙を如何に細かく実践していくかということが重要。設備が限定されていて処理量も限定されるので、入ってくるものが悪ければランクは下がってしまう。行政側の対応が悪いと残渣は当然多くなってしまふことになり、このような状況は容リ法の考え方に適合するのかがということがある。排出する住民への啓発・啓蒙することにより、コスト削減や品質向上につながる。民間へ委託すると行政側の考えが少し希薄になってしまうような傾向が見られる。

(2) 自治体関係者の取り組み

- ・H19~20年度は破袋度がDランク。一つの袋に10~20の小袋が入っている場合がある。出し方の良い地区と悪い地区があるが、悪いものが来ても選別コンベアーの速度を変えることは出来ない。人員を増やしてはいるが、それでも対応できないのが実態であった。処理費用の負担が増えるということでH19/10月に、「H20/1月からは二重袋では出せない」という広報を始めた。公用車へのラッピング広告や、警告シール(イエローカード)を数十枚から百枚/回貼っている。3回/月、パッカー車で収集したものを平場に広げて検査しているが、どうしても二重袋は無くならない。高性能の破袋機を入れて破袋度を上げようとする場合、汚れているものが入っていると、きれいなものまで汚してしまうというデリケートな問題がある。収集の作業員が明らかに重いというものがあっても、個人情報との関係で中身をその場で見られないという問題もある。他の自治体であった火災に見舞われるというような危険性があると判断した場合には、確認するようにしている。
- ・広報紙に2~3回/年の頻度で二重袋は避けて下さいとの呼びかけや、2回/年、廃棄物の減量やリサイクルの特集を出して、住民の方々に協力を求めている。中間処理段階で破袋機以降、未破袋はどうしても残るので、最初のところで専門の人員を配置して破袋している。そこで対応できなかったものについては、ラインの最後のところで除去している。1回/月で組成検査を実施してフィードバックし、ライン速度の調整や、悪い部分の修正を行っている。ライン速度を遅くすると破袋度は向上するが、残業になってしまうということで、頭の痛い問題である。破袋機の性能の良いものを入れることは検討している。
- ・毎年、各世帯に「ごみの出し方」のリーフレットを渡しているが、その中に二重袋は止めて下

さいというようなお願いをしている。H20年度の破袋ランクはA。収集時に「取り残し」はしていない。一人暮らしの人はレジ袋を重宝して使用している。これを収集用の大袋に入れて出すため、小袋が多くなってしまふ。H21年4月から23区の推奨袋が無くなるので、その後半透明等で外からみて確認しやすいものに変われれば、収集作業員も指導しやすくなるのではと期待している。

- ・二重袋について広報誌に記載等はまだしていない。禁忌品等を含めて分別について各自治会に説明をした。H20年度は破袋度でDランクになってしまった。選別ラインが構造上少し短いので、人員を増やすには制限がある状態。現在4人全員でカッターを持ち、必ず破袋するように強化をしている。二重袋について排出側への広報は、ごみカレンダーに記載してやっていきたいと考えている。
- ・ごみは戸別収集で有料指定袋、プラスチックについては透明袋にて無料で戸別収集している。戸別の収集のため1軒ずつ確認できるということで、今年も容リ協の検査を受けたが結果はDランクであった。この結果を受けて破袋機の調整や人員を増員、ラインに6人配置し、重い小袋は残渣として処理するよう指導しており、次回の検査では良い結果が出ると思う。対策としては4回/年出している“ごみニュース”でプラスチックの分別等について細かく謳っている他、収集する指導員にもそのような知識を植え付けるために、定期的に研修を実施し、ステッカーを貼るような指導もしている。また数回/年、中間処理施設に出向いて一緒に選別して指導するなど、二重袋の対策を行っている。
- ・ベールに固める前の圧縮をかけるところの（モニター）画面が常に見られるようになっているが、その時点ではあまり二重袋は無い。前工程で処理しているかどうかは確認していない。収集担当部署に収集の段階で重いかどうかを判断して欲しいとお願いしており、重いものはプラスチックではないと判断し、危険防止のためシールを貼っている。しかし相当の苦情が出て、後で回収しているようである。ラインには4名配置、医療系廃棄物や食べ残しが入っている生ごみ等が出てきたときには、ラインを止めて全部除去するようにしている。問題なのは、雨の日があった後に収集したのももピットと一緒に入っているので、破袋をかけたときに雨水が流れ出て、圧縮梱包のところに行ったときに錆が出る。それが汚れと判断されてしまうので、機械的な汚れについては評価時に考慮して欲しいと思っている。破袋度のランクはBと思う。
- ・広報の結果は監視測定しているが、まだ良くない（Aにはならない）。時間とともに意識が薄れていくので、広報は定期的にやる必要がある。二重袋にするのは洗わない、見られたくない、臭い等である。
- ・自前の中間処理施設で対応しているが、二重袋については声として出ていない。容リプラの収集は4パターンで、中間処理施設で集中しないようにしており、その日のうちに全てベール化してしまう。異物についてラインに3～4人で除去しており、評価は悪くない。
- ・二重袋は問題になっていない。収集の段階で厳しく「取り残し」をしている。収集袋を持って重ければ異物が入っているということで、中を空けて「取り残し」をする。またレジ袋など小袋で弁当の汚れなどがあれば取り残す。中間処理施設の破袋機でスリ抜けた小袋は、ラインの先頭で人手により鎌のような刃物で破袋する。破袋度のランクはA。
- ・戸別収集で不燃、可燃、プラスチック容器包装類は指定収集袋での有料回収を行っている。ビン・缶・ペットボトルとか新聞・雑誌・ダンボール、金属、廃食用油は無料で回収している。

指定袋だと有料なので、(費用節約のため)レジ袋などを使ってその中に容リプラを入れてしまうので、切れ目をいれてもらったりして圧縮をかけて指定袋に入れるように指導していた。しかし検査でDランクになってしまったので、小袋は駄目ということで「取り残し」をし、広報をしてAランクになった。小袋はなぜ駄目なのかという特別なカラーのリーフレットを全戸配布し、指導を徹底している。容リプラも有料なので取り残したら、かなりクレームが出る。そのことに関しては1軒1軒対処して理解を求めている。戸別収集なのでアパート等も今まで通りで、そういうところは殆んど取り残されていたが、大家さんや管理会社を把握しながら注意を呼びかけ指導している。この戸別収集の理念を集合住宅でも活かせるように、1軒ずつ指導しながら解決している。

(3) 事業者団体の出席者より

この分科会に参加して、破袋度や二重袋の問題について理解できた。ごみ袋の組成などについても自治体によって変わるので、色々な事情があることを学んだ。

(4) 容リ協より

問題は自治体、処理業者それぞれの責任がある。容器比率や禁忌品の入る危険性など自治体の責任をどうやって全うするのか、処理業者は契約のなかで義務をどう果たすのか考える必要がある。

(5) 主催者より

住民への啓発が一つのキーワード。容リ協も出前講座を行っており、私共も、ある自治体の町内会へ半年ほどの出前講座で、容リプラのリサイクルについてのお願いをしている。結局はこの積み重ねではないかと思う。それぞれの立場での事情は解るが、最終的には市民の方々にどうやって自治体、中間処理事業者、私共の考えていることを伝えて協力いただくかということで、時間の掛かることではあるが、実はこれが一番の近道であると考える。

以 上